

さらっと いざいざ あったかい
高知家の教育

第 3 期教育等の振興に関する施策の大綱

第 4 期高知県教育振興基本計画

基本目標の達成を測る目安となる測定指標の状況 (令和 7 年 1 月末)

基本目標 1 「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」

基本目標 2 「健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着」

基本目標 3 「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」

基本目標の達成を測る目安となる測定指標の状況

◆基本目標の達成に向けた取組の進捗や施策の成果・課題を把握するため、測定指標を設定し、P D C Aサイクルに基づく進捗管理を徹底

基本目標 1 「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」

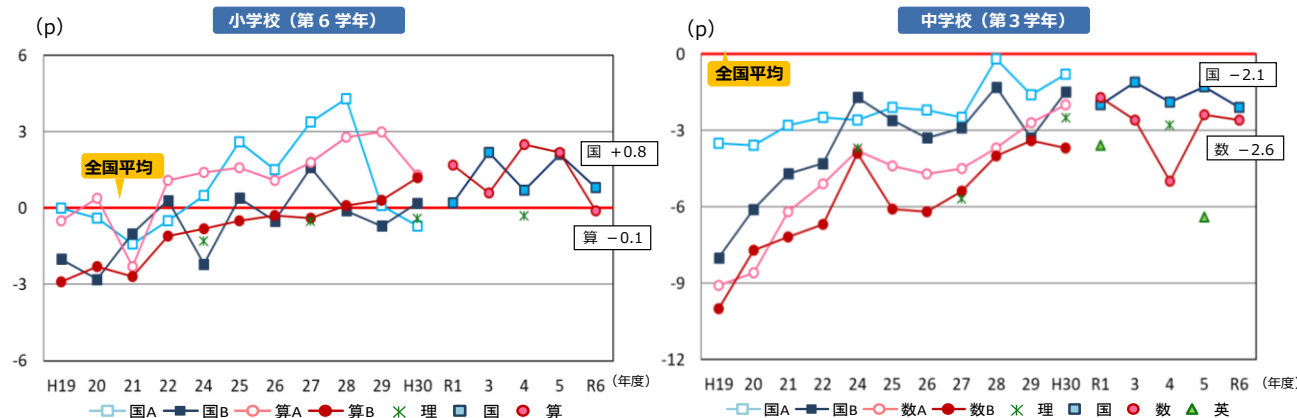
※本結果は、前教育大綱・前教育振興基本計画の取組における成果や課題

＜測定指標＞【義務教育段階】

全国学力・学習状況調査（小学校6年、中学校3年）において、

●小学校の学力は全国平均を継続的に1ポイント以上上回る。中学校の学力は全国平均に引き上げる。

全国学力・学習状況調査結果 ※本県と全国の平均正答率の差（教科、問題別）



※平成22・24年度は抽出調査、平成23年度は東日本大震災の影響により、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全国調査未実施

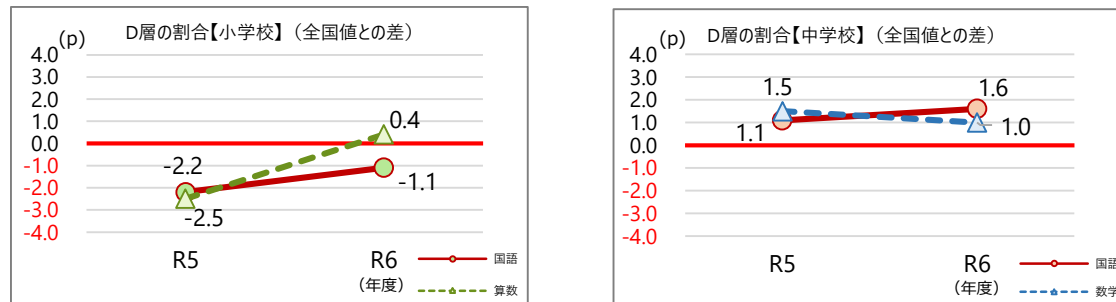
※令和元年度からは、A問題（主として「知識」に関する問題）とB問題（主として「活用」に関する問題）を一体的に問う調査に変更

全国学力・学習状況調査（小学校6年、中学校3年）において、

●＜小学校＞D層*の児童の割合は全国の割合を継続的に下回る。

＜中学校＞D層*の生徒の割合は全国の割合まで引き下げる。

【義務教育段階】*全国学力・学習状況調査では、文部科学省が児童生徒を正答数の大きい順に整理し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。（上位からA層、B層、C層、D層）それにより本県の児童生徒の状況を当てはめて、D層の割合を示している。



■小学校の国語は、県の平均正答率が68.5%で、全国平均を0.8ポイント上回り、算数は、県の平均正答率が63.3%で、全国平均を0.1ポイント下回っている。前回調査と比較すると、国語は、1.3ポイント（R5：+2.1 p→R6：+0.8 p）、算数は、2.3ポイント（R5：+2.2 p→R6：-0.1 p）下降した。

■中学校の国語は、県の平均正答率が56.0%で、全国平均を2.1ポイント、数学は、県の平均正答率が49.9%で、全国平均を2.6ポイント下回った。前回調査と比較すると、国語は0.8ポイント（R5：-1.3 p→R6：-2.1 p）、数学は0.2ポイント（R5：-2.4 p→R6：-2.6 p）下降した。

■小・中学校の学力の状況を本県と全国の平均正答率との差（教科、問題別）でみると、小学校は、国語は全国平均以上となっているが、算数は全国平均を下回った。中学校は、国語・数学ともに全国平均に達していない。

■全国のD層にあたる高知県の児童生徒の割合について、小学校の国語は、全国を1.1ポイント下回り、算数は、0.4ポイント上回った。前回調査と比較すると、国語は、1.1ポイント（R5：-2.2 p→R6：-1.1 p）、算数は、2.9ポイント（R5：-2.5 p→R6：+0.4 p）増加した。

■中学校国語は、全国を1.6ポイント、数学は、全国を1.0ポイント上回った。前回調査と比較すると、国語は、0.5ポイント（R5：+1.1 p→R6：+1.6 p）増加し、数学は、0.5ポイント（R5：+1.5 p→R6：+1.0 p）減少した。



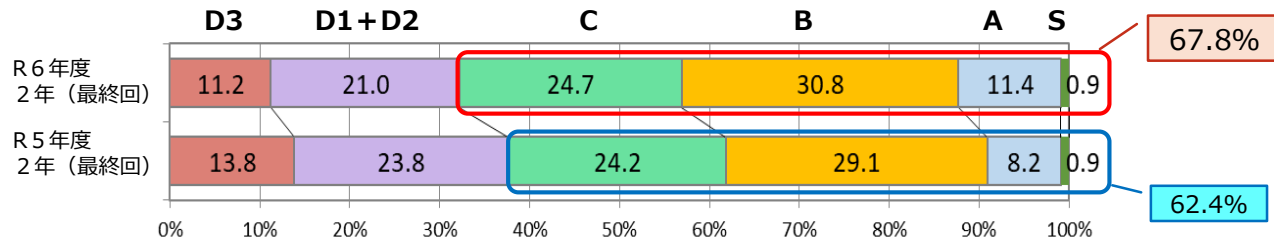
基本目標 1 「確かな学力の育成と、自己の将来とのつながりを見通した学びの展開」

＜測定指標＞【高等学校段階】

県調査において、

- 学力定着把握検査（高校2年）におけるC層*以上の生徒の割合を65%以上とする。

学力定着把握検査結果（対象：全日制・多部制昼間部の全県立高等学校の生徒）



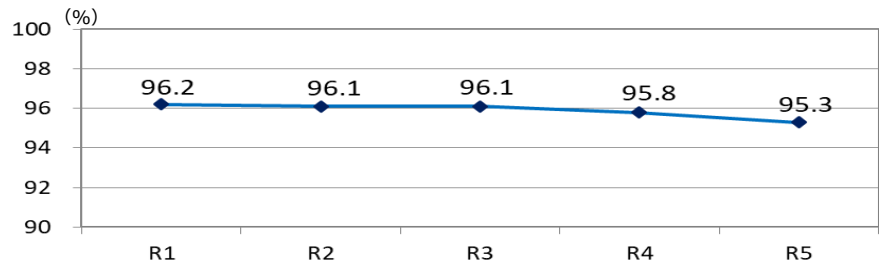
【高等学校段階】*学力定着把握検査の評価尺度では、学習到達ゾーンとして上位からS層、A層、B層、C層、D層と区分されている。その中でC層は基本的な問題に取り組むのに必要な知識が身につけているとされる。

- 令和6年度高校2年（最終回）の検査の結果は、令和5年度と比較して、C層以上の生徒の割合が5.4ポイント増加し、目標の65%以上を達成することができている。
- S層以上は昨年度と同様の割合であったが、A、B、C層はそれぞれ増加した。

県調査において、

- 高校卒業時に進路を決定して卒業する生徒の割合を97%以上とする。

県高等学校就職対策連絡協議会調査結果（対象：全日制・定時制・通信制の全公立高等学校の生徒）



※進路未決定者数には、具体的な進学・就職先が未定の生徒、パート・アルバイト等の生徒も含む（在学中からの就職継続者及び就労支援訓練者は含まない）

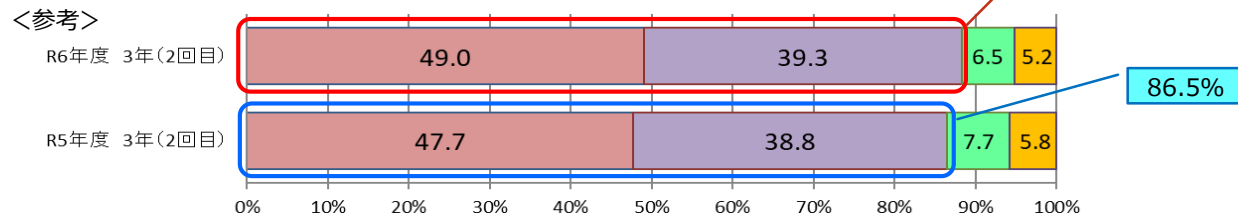
- 進路決定者数の全体の割合は、令和4年度と比較すると0.5ポイント減少（R4:95.8%→R5:95.3%）している。進路未決定者数の課程別割合は、全日制で1.4%、定時制で13.2%、通信制で49.5%と、通信制で多い。
- 高校卒業時に、進学未決定者は22名増加（R4:23名→R5:45名）、就職未決定者は4名増加（R4:10名→R5:14名）、進路未決定者は16名減少（R4:128名→R5:112名）している。ただし、予備校等に通う者は進学者としてカウントしている。

県調査において、

- 高校3年で「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」と回答する生徒の割合を90%以上とする。

県オリジナルアンケート結果（対象：全日制・多部制昼間部の全県立高等学校の生徒）

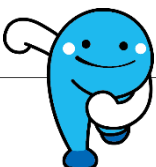
①あてはまる ②どちらかといえばあてはまる ③どちらかといえばあてはまらない ④あてはまらない



※第1回県オリジナルアンケート実施期間：令和6年6月3日～6月21日
第2回県オリジナルアンケート実施期間：令和6年11月1日～12月5日

- 3年生2回目の肯定的回答の割合は88.3%で1回目（6月）の結果（89.8%）より1.5ポイント低下しているが、強肯定的の割合は1.5ポイント上昇している。
- 令和5年度3年生2回目の結果より、肯定的回答の割合は1.8ポイント上昇している。
- 令和5、6年度ともに、1回目と比較すると2回目は強否定の割合の伸びが大きい。

基本目標 2 「健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着」



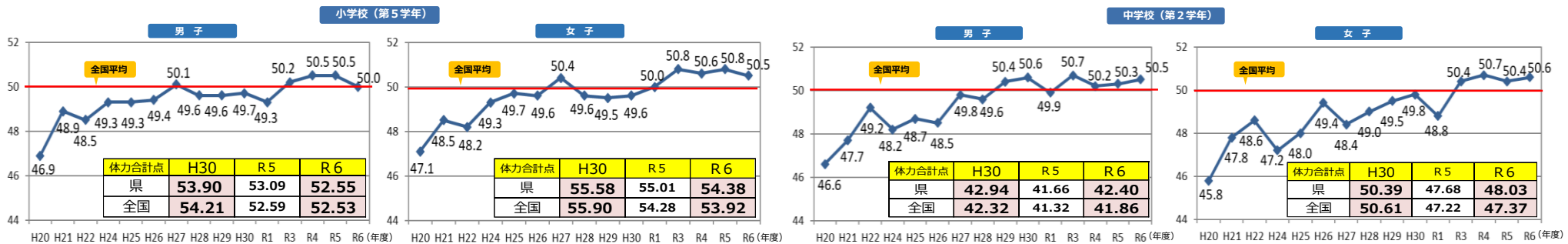
<測定指標>

全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校5年、中学校2年）において、
●小・中学校の体力合計点は、継続的に全国平均を上回る。平成30年度の全国平均値まで改善させる。

※平成30年度が全国・県ともに体力合計点のピークであったため、コロナ禍で落ち込んだ体力をそこまで戻すことを目指すという趣旨で「平成30年度の全国平均値までの改善」を設定

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 ◇体力合計点（8種目の実技の総合点）の推移

※平成23年度は東日本大震災の影響により、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全国調査未実施 ※数値 表：体力合計点 グラフ：T得点（全国平均＝50）



■令和6年度の本県の体力合計点は、令和3、4、5年度に引き続き、小・中学校男女ともに全国平均を上回っているが、コロナ禍前のピークであった平成30年度の水準には中学校男子以外戻っていない。また、令和5年度の本県の結果と比較すると、中学校男女はやや上回り、小学校男女はやや下回っている。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校5年、中学校2年）において、
●総合評価でD E 群*の児童生徒の割合を、平成30年度の全国平均値まで改善させる。

小男子 H30 : 30.1% (28.8%)	⇒ R 5 : 33.8% (35.8%)	⇒ R 6 : 35.0% (35.9%)
小女子 H30 : 23.8% (22.5%)	⇒ R 5 : 26.4% (29.3%)	⇒ R 6 : 29.6% (30.8%)
中男子 H30 : 27.6% (27.8%)	⇒ R 5 : 31.6% (32.7%)	⇒ R 6 : 28.8% (30.9%)
中女子 H30 : 11.7% (10.8%)	⇒ R 5 : 17.9% (19.1%)	⇒ R 6 : 17.9% (19.2%)

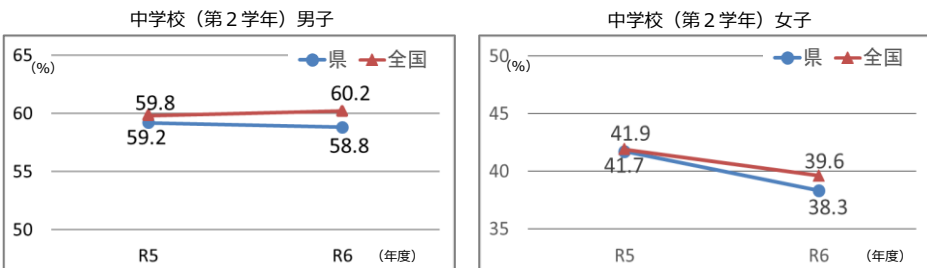
※ () 内は全国平均

*DE群は、体力テストの総合評価において、よい方からABCDEの5段階に分類された4、5段階に属する群

■令和6年度のD E 群の児童生徒の割合は、小・中学校男女ともに全国平均より少ない。
■平成30年度と比較すると、全国平均や本県の結果には及ばず、コロナ禍前の水準には戻っていない。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査（中学校2年）において、

●「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う生徒の割合が継続的に全国平均を上回る。



■「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う生徒の割合を全国平均と比較すると、男女ともに下回っている。また、令和5年度の本県の結果と比較すると、男女ともに強肯定的の割合が下降している。

基本目標 2 「健やかな体の育成と、基本的な生活習慣の定着」

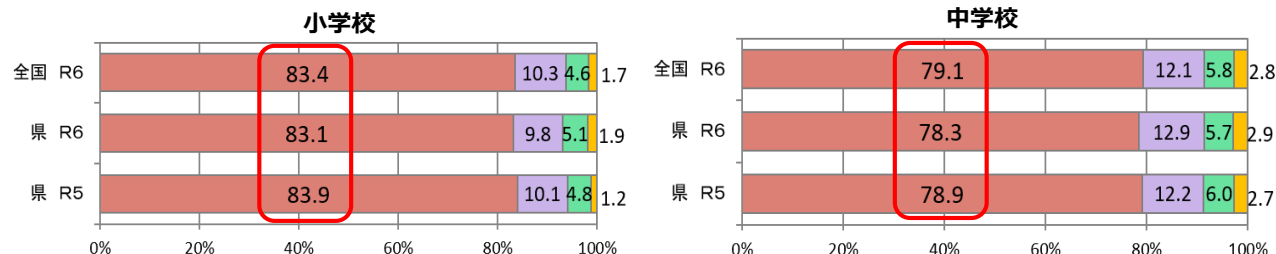


<測定指標>

全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査（小学校6年、中学校3年）において、

●規則正しい睡眠や食事などの基本的な生活習慣に関する項目の肯定的割合が全国平均を上回る。

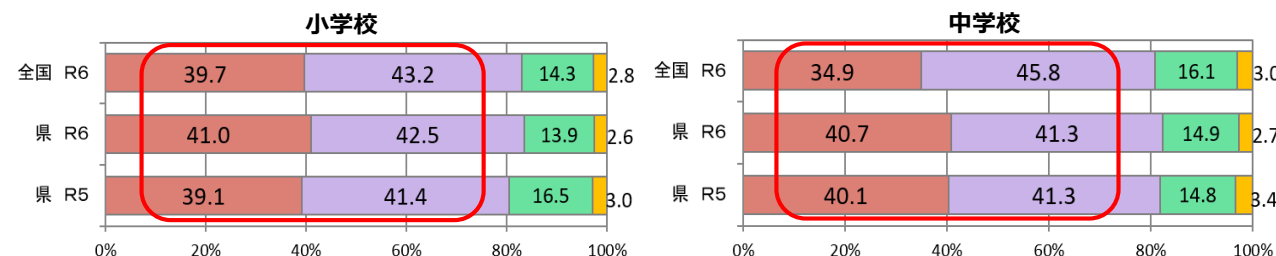
①「朝食を毎日食べる」と回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。



■「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校では-0.3ポイント、中学校では-0.8ポイントとなっており、全国平均を下回っている。

■また、前回調査と比較すると、小学校では0.8ポイント、中学校では0.6ポイント減少している。

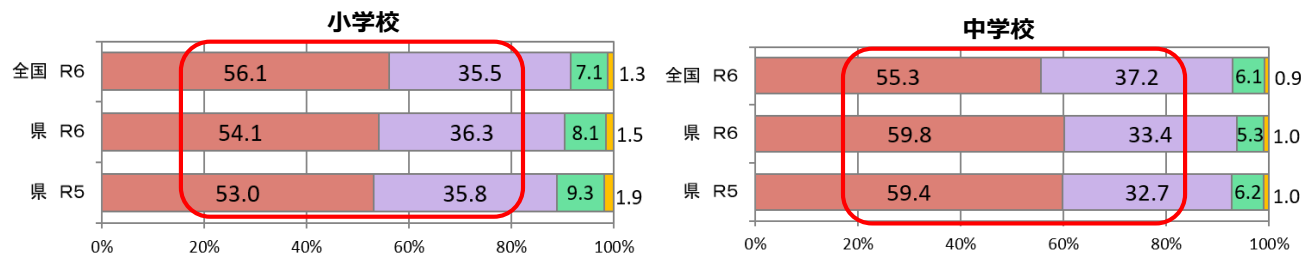
②「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合(%)



■「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校では+0.6ポイント、中学校では+1.3ポイントとなっており、全国平均を上回っている。

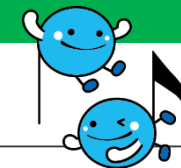
■また、前回調査と比較すると、小学校では3.0ポイント、中学校では0.6ポイント増加している。

③「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回る。「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合(%)



■「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校では-1.2ポイント、中学校では+0.7ポイントとなっている。

■また、前回調査と比較すると、小学校では1.6ポイント、中学校では1.1ポイント増加している。



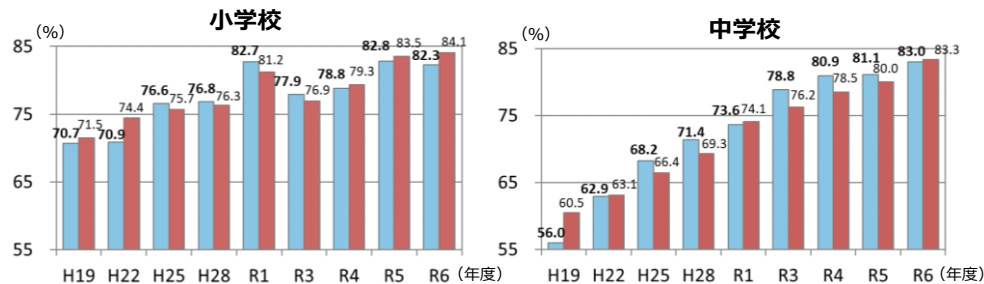
基本目標3「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」

＜測定指標＞【義務教育段階】

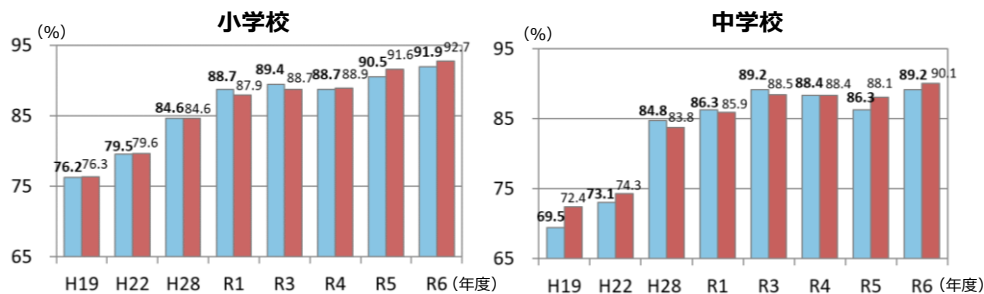
全国学力・学習状況調査 児童生徒質問調査（小学校6年、中学校3年）において、

●道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。

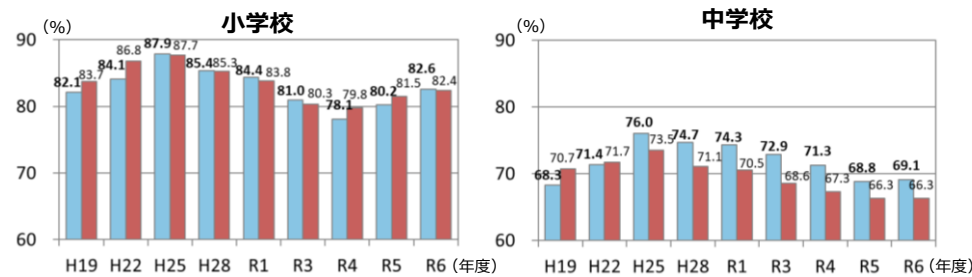
①「自分には、よいところがあると思う」



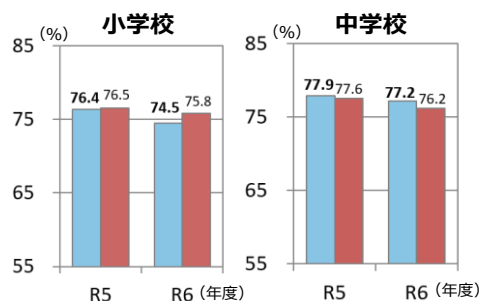
③「人が困っているときは、進んで助けている」



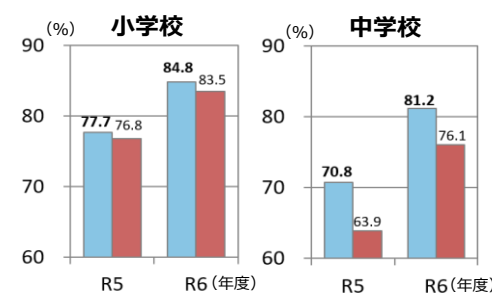
②「将来の夢や目標を持っている」



④「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」



⑤「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」



- ①の自尊感情に関する質問の肯定的回答の割合については、中学校において年々増加傾向にある。小学校においては、令和3年度に肯定的回答が落ち込んだが、その後増加傾向がみられる。しかし前回調査と比較すると、小学校では0.5ポイント減少した。
- ②の夢や志に関する質問の肯定的回答の割合については、小・中学校ともに下降傾向にあったが、近年、若干増加傾向がみられる。
- ③の思いやりに関する質問の肯定的回答の割合については、前回調査と比較すると、小学校では1.4ポイント、中学校では2.9ポイント増加している。
- ④の多様性・包摂性についての理解に関する質問の肯定的回答の割合については、小・中学校ともにやや減少している。
- ⑤の公共の精神に関する質問の肯定的回答の割合については、前回調査と比較すると、小学校では7.1ポイント、中学校では10.4ポイント増加している。

基本目標3「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」

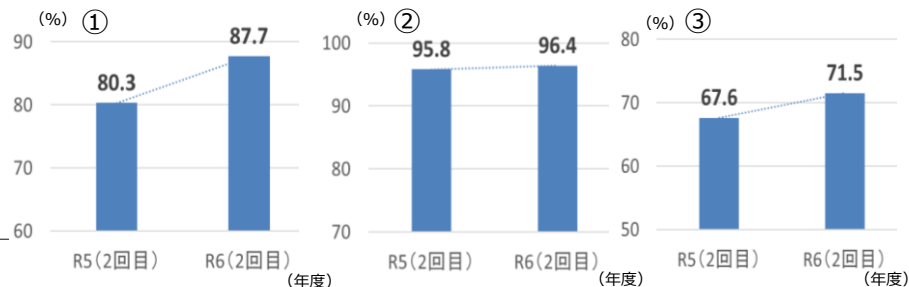
＜測定指標＞【高等学校段階】
県調査（高校3年）において、

●道徳性等に関する項目の肯定的割合を向上させる。＜高校3年2回目調査＞

- ①「自分という存在を大切に思える」
- ②「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」
- ③「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」
- ④「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」※④は、R6より新設項目 **R6：67.5%**（3年次1回目：61.1%）

※＜参考＞同一集団R6（3年次1回目調査結果） ①85.7%、②96.4%、③66.7%

※対象：全日制・多部制昼間部の全県立高等学校の生徒



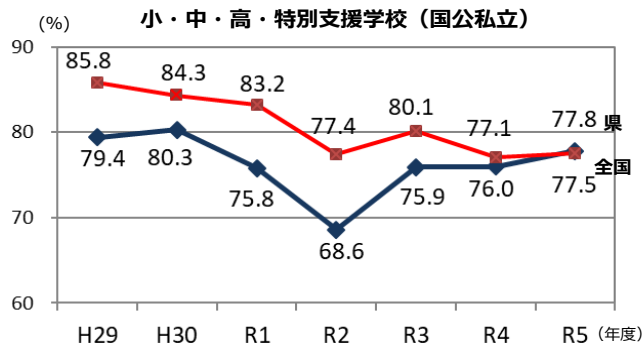
- ①の自尊感情に関する質問の肯定的回答の割合については、昨年度の同学年同時期調査の結果と比較して7.4ポイント増加している。また、前回の3年次第1回調査の結果と比較して2.0ポイント増加している。
- ②の他者理解に関する質問の肯定的回答の割合については、昨年度の同学年同時期調査の結果と比較して0.6ポイント増加している。また、前回の3年次第1回調査の結果と比較して変化がない。
- ③の公共の精神に関する質問の肯定的回答の割合については、昨年度の同学年同時期調査の結果と比較して3.9ポイント増加している。また、前回の3年次第1回調査の結果と比較して4.8ポイント増加している。
- ④の社会参画に関する質問の肯定的回答の割合は67.5%であり、半数以上の生徒が高校入学以降、地域や社会をよりよくするために、何らかの活動を行っている。

＜測定指標＞

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査において、
●生徒指導上の諸課題（いじめ、暴力行為）の状況を改善させる。

①いじめの解消率を全国平均以上にする。

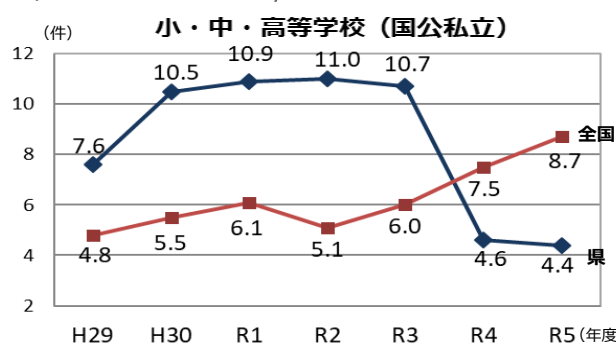
◇いじめの解消率



②暴力行為の発生件数を全国平均以下を維持する。

◇暴力行為

※数値は1,000人当たりの発生件数



- 県はいじめの解消率は77.8%で、前年度より1.8ポイント増加しており、令和2年度から増加傾向にある。
- 県はいじめの解消率は、全国平均を0.3ポイント上回る結果となっている。

- 県の1,000人当たりの暴力行為の発生件数は4.4件で、前年度より0.2ポイント減少している。
- 前年度より大きく減少した令和4年度に引き続き、令和5年度も全国平均（8.7件）を4.3ポイント下回る結果となった。

※＜参考値＞R5（国公立）

1,000人当たりのいじめの認知件数：55.6件（全国：57.9件）

1,000人当たりのいじめの重大事態発生件数：0.12件（全国：0.10件）

基本目標3「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」



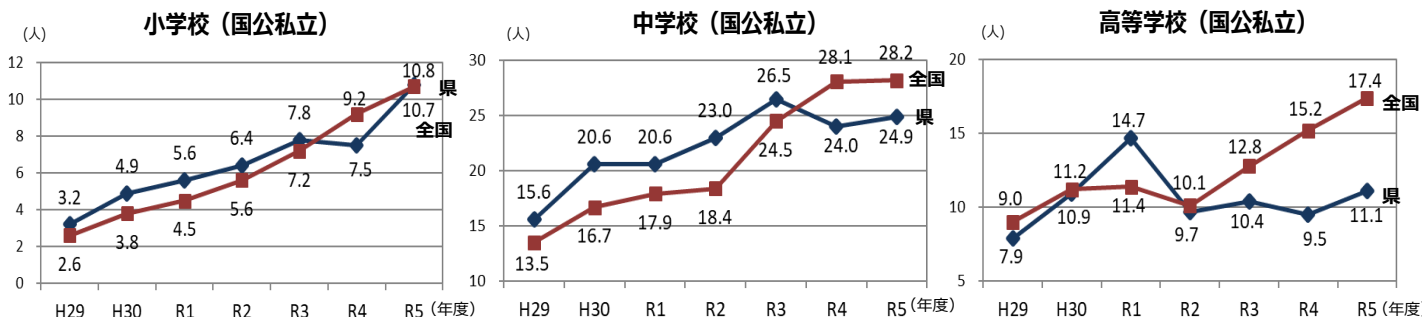
<測定指標>

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査において、

●不登校について、

①1,000人当たりの新規不登校児童生徒数を全国平均以下を維持する。

◇新規不登校児童生徒数 ※数値は1,000人当たり

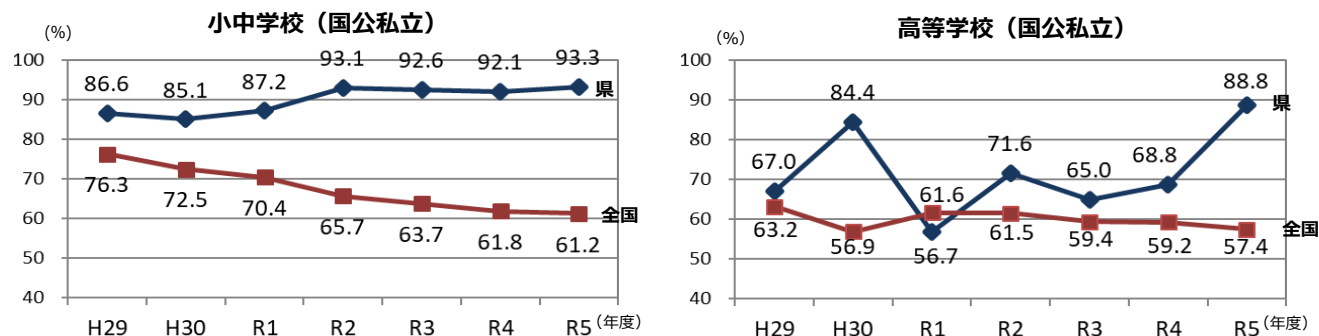


■ 県の新規不登校児童生徒数について、小学校は10.8人（前年度より3.3人増）、中学校は24.9人（前年度より0.9人増）、高等学校は11.1人（前年度より1.6人増）という結果となった。

■ 全校種ともに県の新規不登校児童生徒数は、令和5年度は前年度より増加したが、中高は、全国平均を下回る結果となった。

②不登校児童生徒のうち、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けている割合を向上させる。

◇不登校児童生徒のうち学校内・外で相談・指導等を受けている割合



■ 県の不登校児童生徒のうち学校内・外で相談・指導等を受けている割合について、小・中学校は93.3%（前年度より1.2ポイント増）、高等学校は88.8%（前年度より20.0ポイント増）という結果となった。

■ 小・中学校は、全国平均（61.2%）と比較すると、32.1ポイントと大きく上回った。

■ 高等学校は、全国平均（57.4%）と比較すると31.4ポイント上回った。

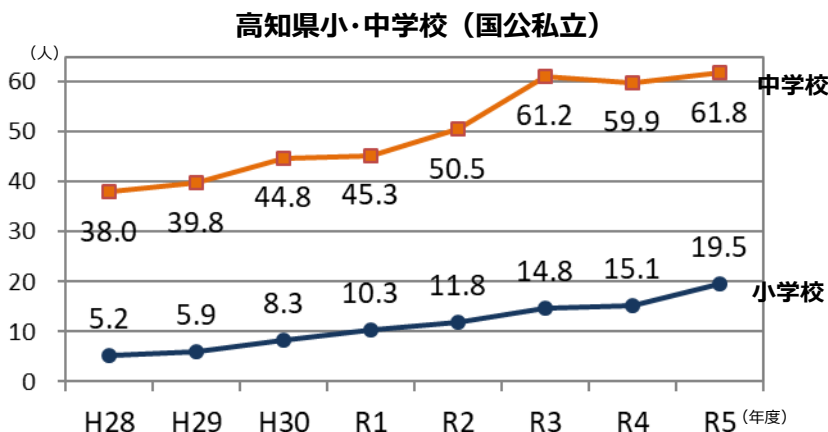
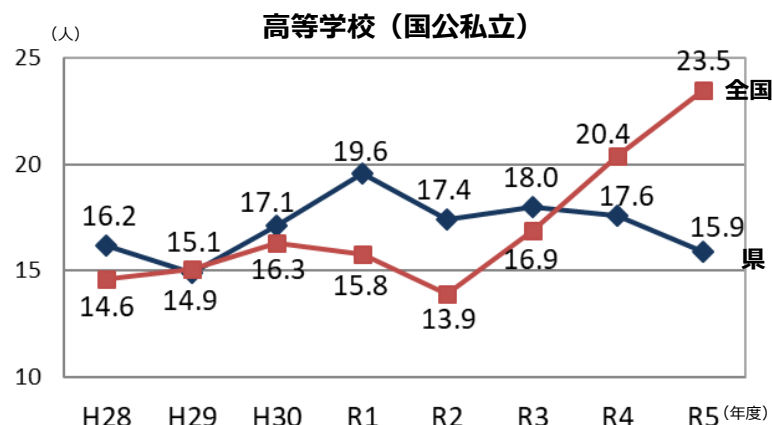
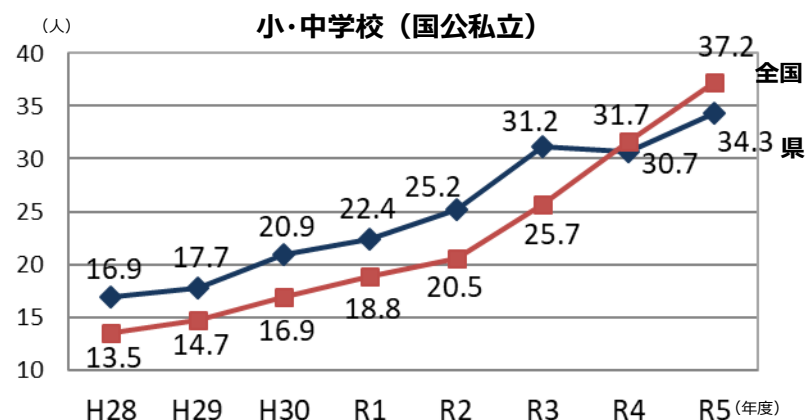
不登校に係る測定指標②については、「高知県不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会」において、「誰一人取り残されない多様な学びの形態が求められる中、学校内外の機関につながることは子どもが学びたいと思ったときに教育にアクセスできる可能性が高まるため重要」とされたことから、継続。

基本目標3「豊かな心の育成と、多様性・包摂性を尊重する教育の推進」

【参考】

児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査 ＜不登校＞

◇不登校児童生徒数 ※数値は1,000人あたり



【参考】

- 令和5年度全国調査によると、小・中学校の1,000人あたりの不登校児童生徒数については、前年度より増加が見られたが、全国平均との比較では2年連続それを下回る結果となった。
- 高等学校の1,000人あたりの不登校生徒数は、昨年度より1.7人減少しており、全国平均との比較では2年連続それを下回る結果となった。